

「いのちの標語」受賞作品

大丈夫

一人じゃないよ そばにいる

入選 瑞穂 袴田

# まちのできごと

## 地域のつながりを求めて

### 町社会福祉大会

7月30日、総合開発センターにおいて、



絵本に夢中です

この日は、紙芝居や絵本の読み聞かせのほかに、キャラバンカーに積載した絵本の自由閲覧も行われ、みんな競うように様々な絵本を手に取り、本との触れ合いの時間を楽しんでいました。

これは、子どもたちが本と仲良くなる最初のきっかけになつてほしいと、講談社が行っている事業で、たくさんの絵本を積んだキャラバンカーで各都道府県を巡回し、幼稚園、保育所、小学校や図書館、書店などを訪問しているそうです。

7月15日、藤里幼稚園に講談社おはなし隊とキャラバンカーが訪れ、園児や小学校児童を対象に絵本の読み聞かせや、紙芝居などが行われました。

## 本と親しむきっかけを

### 講談社おはなし隊来町

休憩時間には、こみつと・くまげら館で就労支援事業の一環として開発を進めてきた「舞茸キツシユ」の試食が行われ、「ビールによく合いそうだ」「初めて食べがおいしい」など様々な感想が述べられていました。閉会後は、チャリティイー・バザーも催され、当町商工会と親交のあ



舞茸キツシユを試食

「福祉でまちづくりくまげら笑顔の輪」をテーマに開かれた本大会では、石岡町長など来賓よりあいさつが述べられ、つづいて厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域福祉専門官の中島修氏による「安心とゆとりのある福祉で町づくり藤里の魅力」と題する講演が行われました。また、児童生徒や宝昌寺住職新川泰直氏による体験発表では、3月に起きた東日本大震災で感じたこと、被災地を訪れて活動した際の体験などが鮮明に語られ、参加者は思い思いに耳を傾けていました。

藤里町社会福祉協議会（市川静子会長）による第36回藤里町社会福祉大会が開催され、約200名の関係者、町民が参加しました。

参加した児童達は、初日は緊張した様子だったものの、3日間の様々なイベン



上手に捕まえました！

このツアーは、県の「秋田発・子どもの双方向交流事業」を活用し、都会では体験できない農山村での田舎の生活を首都圏の子どもたちと地元の児童が交流しながら体験することで、地域の魅力を再発見し、思いやりの心豊かな人間性、社会性などを育むことを目的として実施されました。

8月3日～5日の3日間、藤里町ツアーリズム協会主催のツアー「巨神山地のふもと秋田県藤里町でエネルギーチャージ！～田舎の山と川で気分は大満足～」が行われ、埼玉県から児童11名、藤里町内から児童22名が参加しました。

る南三陸町の特産品などが並んだコーナーは瞬く間に購入者で埋め尽くされました。集まった収益金は、被災地の支援のために寄付することとしました。

## 体験ツアーで

### 夏の藤里を満喫